

# KIBO NO NIJI きぼうの虹

**発行所**  
 北海道大学生協同組合  
 札幌市北区北8条西7丁目  
 教職員委員会編集  
 電話 011-746-6218

## 主な記事紹介

- 二面三画 ニホンザルごぼれ話 第9話
- 四画五画 おかげさまで400号
- 七画 大学文書館へ行く 第11回

北海道文書館 井上 高聡  
 風張 喜子



皆様、こんにちは。理事・副学長の山口です。  
 本号は400号の記念号となる由、また北大生協は今年6月に75周年を迎えたこと、まずは二重のお喜びを申し上げます。75周年ということからは、北大生協の設立は1947(昭和22)年となります。設立当時の合言葉は「学ぶことは食べること」だった由。終戦直後というところで、まずは食べ物と書籍を確保して学生さんと教職員の皆さんに提供することが目標だったということでしょうか。時代はずいぶん変わりましたが、とはいえ、コロナ禍やウクライナ情勢等、「歴史は繰り返さないが韻を踏む」(マーク・トウェイン)の言葉通りのことが今起きているようにも思います。  
 ここで少し自己紹介をさせていただきます。私は、2020年10月寶金総長の就任に伴い、総括・教育担当として理事を努めさせていただいております。私自身は、名古屋大学で大学院生、助手・助教を務め、2001年当時の北海道大学理学研究科生物科学科に教授として赴任しました。お陰様で、今年3月に教授として定年退職となり、今は理事・副学長職に専念しております。本学全体の活動としては、とくに新渡戸カレッジの開校当初からこれに携わってきました。そのような経緯もあり、現在本学の教育全般にかじ取りをさせていただいております。

さて、寶金総長は就任当初より「光は北から、北から世界へ」という本学の新たなコンセプトを示しました。この「光は、北から」は、20226年の本学の創基150周年記念事業の基本コンセプトにもなっています。「光」とは単に知識や思想といっ

### 「きぼうの虹」400号発行を祝して

北海道大学  
 理事・副学長  
**山口 淳二**



### Opinion!

コロナ禍は3年目に突入しました。今年4月からは授業もほぼ対面形式となり、学生さんも通学することでこの素晴らしいキャンパスを満喫してもらい、また学生同士の交流も正常化しつつあります。未曾有の危機といわれたコロナ禍ですが、これは、よく考えてみると、これは突然降ってわいたものではなく、既に私たちの身の回りにあった小さなひずみが顕在化しただけのようにも思えます。例えば、このコロナ禍で普及した(せざるを得なかった?)オンライン授業の環境ですが、対面授業に戻してめでたしめでたし、ということではなく、私たちは今後、オンデマンド方式やハイフレックス方式を取入れた学生主体のポストコロナの新たな教育形態の確立を目指して積極的に挑戦していく必要があります。また、このコロナ禍では、学生さんへの大規模な経済支援(国だけではなく、寄附金からなる北大フロンティア基金からの支援等)もありましたし、現在でも定期的な食糧支援を実施しています。食糧支援は、この7月に札幌・函館キャンパスでも実施されました。これは学務部学生支援課だけでなく、北大生協の全面的なご支援によって実現したものです。ここに改めて謝意を表します。  
 そして、北大生協の益々のご発展と、次の75年のスタートとして、本学と連携しながら共に歩んでいくことを祈念したいと思います。



地域個体群研究会 風張 喜子

本当の母ちゃんはどこち!?

ふだんならまだちょっと出産には早い3月、いつもの群れでは何頭ものメスがアカンボウを産みました。昨春に1頭もアカンボウが生まれなかったのに加えて、秋の実りも豊かだったこともあって、たくさんのアカンボウが生まれそうな予感です。

ところで、栄養たっぷりの農作物や人の食べ物を知らない野生のニホンザルでは、メスが2年連続で出産することはめつたにありません。妊娠や出産に耐えられる体力が戻っていないため、出産するとその秋の交尾期には発情しないからです。わたしたちヒトでも、妊婦さんは骨

粗しよう症になりやすいとか、授乳中の母さんは痩せやすいと言いますよね。妊娠・出産、そして育児は、文字通り体を削りながらの大仕事です。

さて、ほとんどのメスが出産を終える5月、もう一度群れに会いに行きました。休息中の群れのあちこちで、たくさんのアカンボウたちがちょこまかと動いています。例年より早く生まれたからかアカンボウが多いからか、母ザルから離れて一緒に遊ぶアカンボウが多いような気がします。こんなにたくさんのアカンボウ、誰の子供か確認するのにちょっと時間がかかりそうです。わたしの調査する群れではおよそ40年にわたって、1頭1頭のメスがいつどの子供を産んだのか記録され、母方の血のつながりをたどることができるようになっています。そうした情報がザルの社会や行動を研究するのに役に立っています。代々の研究者たちの努力の結晶、宝物です。

そうこうするうちに、ぐつたら休んでいたオトナのザルたちが、伸びをしたりポリポリと体を掻いたりとそわそわし始めました。そろそろ移動が始まりそ

うです。母親らしいメスたちが、なかなか遊びを終わらせないアカンボウを迎えに行きます。すると、アカンボウたちはピョンツとメスたちの腰に飛び乗り運ばれます。だいたい当たっているけれど、迎えにいったメスが母親だと決めつけるのは尚早です。ニホンザルでは、ふつうはお乳をあげるのはその子を産んだメスだけなので、アカンボウがメスのお乳を啜えるところまでを確認します。

何日か観察していると、奇妙なことに気が付きました。2頭

のメスが1頭のアカンボウをシェアしているようなのです。どちらのメスも乳首を啜えさせています。しかも、アカンボウのほっぺの動きを見ると2頭ともお乳が出ているようです。だから、最初はそれぞれのメスにアカンボウがいるものだと思っ てしまいました。アカンボウの方はというと、遊びの後にどちらのメスが迎えに来て、そのメスにくっついて移動します。そして、どちらかのメスがそばにいれば、もう片方と長い時間遠くに離れていても平気なようです。どちらが本当の母親なの



じゃれ合うアカンボウたち

## いじわるじいさん

映画『プラン75』を見た。近未来の日本が舞台。75歳以上の国民は、希望すれば死ぬ日を選べるという制度が国会を通った。安楽死支援制度である▼ホテルを解雇された78歳の清掃婦は独り身で、住宅の退去も迫られている。生活保護を受けず自力でと志すも、職も部屋も見つけられず。映画を観ていると辛くなるのは、現実の、自分を含めた高齢者の姿と重なるからか▼物価高騰が続く4月、年金がまた減額。現役世代の負担能力に応じた算出された結果だった。勤労者の37%が低賃金の非正規職員と聞けば、減額も仕方なしと諦める私の脳裏に、作中の彼女や彼が思い浮かぶ。彼らは死の日を決めさせられているような気もしてくるのだった▼そんな時、諦めない人達のニュースが入ってきた。賃上げを求めて、米国ではアマゾンやアップルで労働組合が結成され、欧州の国々では空港職員がストライキをしている。そうだ、と思い至る。我々にも、健康で文化的な生活を営む権利がある(憲法25条)。まともに暮らせる賃金と、寿命を全うできる制度を望むのは当たり前のこと▼映画からは、ささやかな楽しみが、孤独をより際立たせているような日常と共に、語らぬ彼らの表情から秘めた意志も伝わってくる。(今日子)



乳首をひっぱるアカンボウ。おかげで、乳首の伸びで子育て経験者かどうか分かります。

か簡単には見分けが付きません。そこで、何か手がかりがないかじっくり観察してみることになりました。

この2頭のメスたち、実は母娘でふだんからとても親しい間柄です。ある日、遊びから戻らないアカンボウを「娘」が迎えに行こうとします。するとさすが「母」もアカンボウの方へ走り寄り「娘」を追い越します。遠慮したのか「娘」はすぐに立ち止まり、「母」の少し後ろに腰を下ろしました。そして、アカンボウが2頭の方へ駆け寄って

くると、「母」は走っているアカンボウをひったくるかのように抱きかかえて移動してしましました。多くの母ザルは、もう少しアカンボウのペースに合わせるものですが、なんだか「母」の行動には、「娘」より先にアカンボウを手にしようとする焦りや強引さを感じられます。その後、「娘」は「母」に追いつくと、彼女を毛づくろいし始めます。毛づくろいが気持ちよくなってきたのか、「母」はアカンボウを抱きしめていた腕を緩めて寝そべります。すると、アカンボウは「娘」のお腹にくっつ

いてお乳を探り始めました。

この時期、母ザルはほかのザルにアカンボウを触られるのを嫌がることも多く、アカンボウの姉たちは母ザルに怒られないかどうか様子を伺いながら慎重に触りに行きます。「母」が本當の母親なら「娘」をあからさまに牽制しそつだし、「娘」はもうちょっとおずおずとアカンボウに接するようないし始めます。それに、「娘」に張り合うようにアカンボウを迎えに行く「母」の様子も、まるで強いメスが他人のアカンボウを借りる時のようです。本當の母親は「娘」なのかもしれません。

二ホンザルでは、生後間もないアカンボウを失くしたメスや出産直前のメスが、他のメスのアカンボウを育てることが稀に観察されます。本當の母親が死んでしまったアカンボウを引き取る場合もあれば、母親が健在なのに奪って育ててしまう場合まであるようです。この養子取りには、子育てに関するホルモンが影響している可能性もあるそうです。同じ群れを見ている研究仲間によると、3月下旬に「母」と「娘」はそれぞれアカンボウを抱えていたというか



アカンボウはたくさんいるのに、なぜか1歳の子ザルを借りようとしているところ。まずは子ザルにキス。母ザルに怒られないか様子を窺います。

ら、ひと月半の間にとちらかのアカンボウが死んでしまったようです。それで、身近な家族のアカンボウに接するうちに乳首を啜えさせたり、移動のときに運んだり母親のように振舞うようになったのでしよう。生まれて間もないアカンボウが死んでしまうことは珍しくありませんが、群れにたくさんいるアカンボウが生まれたこと、しかも身近な家族にもアカンボウがいた

ことが重なって起きた出来事かもしれません。今年、共同子育て(?)をしてるのは、実は「母」と「娘」の他にもう一組いるんです。先輩方から引き継いだ大事な家系図を無事に繋げられるかどうかはかなり心配なところですが、アカンボウたちが2頭の母ザルとどのような関係を築いていくのか、今後の展開が楽しみです。

# 400号を記念して、 そして、「これから」も

編集委員長 保健科学研究院 笠原 敏史

「きぼうの虹」400号記念号の発刊に際して、ご挨拶申し上げます。「きぼうの虹」は、北海道大学（札幌農学校）が1876年8月に開校し、71年後の1947年に北海道大学生協が設置され、その22年後の1969年に創刊されました。創刊から53年間、一度も途切れることなく学生・院生の皆様や教職員の皆様にお届けできたことは、これまで本誌への執筆を快くご協力を頂いた方々、歴代の編集委員長と委員の皆様のご尽力、そして、陰ながら支えて頂いた北海道大学生協の皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

少し振り返りますと、前回の記念号「300号」は2005年9月に発刊されました。その記念号の言葉に「400号の記念号は16年後の恐らく2021年ころになります。どんな世の中になっているのか、この紙面が映し出してくれているでしょう」と書かれていました。2021年は、ウイルス「COVID-19」という未曾有の感染症の流行が続いており、ここ数年で私たちの生活は一変しました。このような状況が誰が予想できたでしょうか。今現在も大学の教育や研究、そして、大学生協の活動は大きな影響を受けています。「きぼうの虹」はコロナ禍での北大生協の各委員会活動を

通じて学生や大学院生の生活、教職員の教育現場や研究活動の状況をお伝えし、情報を共有し、お互いの励みや支えになることに、多少なりとも貢献できたのではないかと思います。改めて、「きぼうの虹」を発刊し続けることの意味を確信いたしました。次の記念号である500号が発刊されるまでの間、この世の中はどのようなものになるでしょうか。きっと、誰もが予想できない未来が待っているかもしれません。これからも北海道大学と北海道大学生協とともに歩み、多くの学生・大学院生や教職員の皆さまにご愛読されるよう努める所存です。また、読者の皆さまにいつそう愛される「きぼうの虹」を目指し、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

## 400号に寄せた

元・北大生協教職員委員会委員長 問宮 春大

私は2020年に大学を完全退職するまで北大生協の教職員委員会で活動していましたが、奇しくも退職した年からコロナ禍が始まったのです。当初はこんなに大ごとにはなるとは思いませんでした。コロナ下での学生生活や教職員の皆さんのご苦労は想像以上のものだと思います。また大学生協が直面しているであろう困難に対し、何もできない自分が歯がゆくもありません。そんな中、生協理事会室からきぼうの虹400号記念誌へのコメント依頼がありました。

あつ、生協頑張ってるんだ。在職時には長年「きぼうの虹」の発行に関わってきました。家を出た子供が力強く生きていくのを確認した親の気持ち、と言っては大き過ぎでしょうか。コロナ禍、ウクライナ侵略、e t c . . . 社会に不安と不信が広がる今こそ「協同組合」の理念が輝きを増します。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 植物園・博物館 加藤 克

2017年から「文化財へ行く」を担当



「きぼうの虹」創刊号 1969年4月発行  
タイトルは募集され2号から「きぼうの虹」で発行されています。



300号 (2005年5月発行) 以降も大学の協力をいただきながら、店舗新設・リニューアルを行ってきました。



組合員が語る生協の未来

# 400号 とともに



300号 (2005年5月発行) 以降も大学の協力をいただきながら、店舗新設・リニューアルを行ってきました。

## 虹の歴史 (発刊から最近まで)

- 1号〜50号 (69年4月〜76年3月)
- 発刊の言葉 理事長 安倍三史(69年4月)
- 組織委員会発足にあたって 戸川賢二(69年4月)
- 教養学生センター完成(69年)
- 待望の生協会館開店(69年10月完成)
- 生協大会、消費学生大会に初めて代表参加(69年)
- COOP牛乳誕生(70年)
- 北大生協商品分析研究室設立にあたって(70年)
- 生協会館館内二階化(70年)
- 「北大図書刊行会設立総会(71年)
- 北大生協25周年記念行事(72年)
- 中央厚生センターの実現と中央食堂施設改善要求学生部長交渉(74年)
- 75新春総代理座談会
- はねかえせ高物価インフレ灯油の共同購入スタート(75年)
- 51号〜100号 (76年5月〜81年11月)
- 奨学金問題と生協 理事長 八木健三(76年)
- クラーク会館学生書房・新装オープン(76年)
- 新中央食堂オープン(77年5月)
- 「食糧部運営委員会」設置(77年)
- 国連軍縮会議レポート(高橋友規)(78年)
- 80年代にふさわしい北大生協づくりを(79年)
- 国際児童年10円募金運動「バケツ1杯の水をおくろう」(79年)
- ゆるせぬ狂乱物価再来 第二次石油危機(79年)
- 記念講演 山田定市氏
- 国民の世論で一般消費税をつぶそう(79年)
- 1980年 新春対談
- 生協理事長 安井勉氏 北大学長 今村成和氏
- 総代会議長座談会 この一年をふりかえって(81年)
- 100号記念記事 組合員が語る生協の未来(81年)
- 101号〜150号 (82年1月〜86年11月)
- いまこそ平和を！ 広がる決意
- S&D II 連絡会に世論の結果を(82年)
- 灯油情報 日石通産局へ要請行動(83年)
- 生協の新しい施設ができました 新装売店と北西会館食堂(83年)
- 83生協強化月間・組合員の代表六名決定
- 生協大会消費者大会(83年11月9日・11日)
- 暮らしが危ない! 五九年度政府予算案
- 増税の足音が聞こえる(84年)
- 米不足! 17年ぶりの外国米輸入(84年)
- どうなっている、私達の主食米、水不足緊急輸入(85年)
- 核廃絶を目指して、核問題の総合的把握
- 核問題とは何か?(85年)
- 9100名! 生協規則反対署名集まる(85年)
- 151号〜200号 (86年12月〜92年5月)
- 虹特集 歴代の編集長たち 虹をささえた女性たち(86年)
- 国鉄分割民営化とは何か(86年)
- 売上税導入・国民の怒りを爆発(87年)
- 北大生協創立40周年 記念講演会 安井理事長(87年11月)
- 防衛費を、こんなに増やして、よいのだろうか
- 第1回(新年度)国家予算案(88年)
- 北大全体の厚生施設政策の確立と教養厚生センターの早期建てかえを求め(88年)
- 生協が何故やる平和運動(88年)
- 88第3回国連軍縮特別総会(S&D III)参加
- 消費税反対 消費税を(88年)
- つづけてよう! 反対運動つづけて消費税(88年)
- シリーズ「環境と生活を考える」第6回
- 水汚染と生活 丹保憲仁(工学部教授)(90年)
- 201号〜250号 (92年6月〜98年6月)
- 93年原水爆禁止世界大会代表報告 長崎へ(2名)
- 臨時総代会開催 上期決算報告
- ライース価格決定機関変更(93年12月)



100号記念号 1981年11月発行  
学内教職員の方々から、未来の北大生  
きました。



200号記念号 1992年5月発行  
創刊から200号までの世相についてまとめられてい  
ます。

# おかげさまで 生協の歴史



## 北大台湾演習林百年祭発起人 菅 大志

北大珈琲を北大台湾事務所で!?

台湾通信「北大珈琲」と「北大紅茶」を  
375号から388号まで14回連載させて  
いただきました。

この台湾通信の一部が、7月から開催さ  
れている国立自然科学博物館の「想入啡  
啡・細説珈琲」にて台湾珈琲の歴史として  
展示中です。

そして、8月から北大が1920年に建  
築した菱茸屋根の台湾演習林事務所が戦後  
77年ぶりに使用できるようになりました。  
ここで、北大珈琲と北大紅茶を飲みませ  
んか?  
(インスタグラム@ambifarm)

## 北方生物圏フィールド科学センター 福井 信一

16年先のあなたへ

五百号突破、おめでとうございます。百  
号で約16年：時代も変わりますよ。北海  
道新幹線も札幌へ延伸し、オリンピックも  
開かれた：かは存じませんが、16年前はコ  
ロナで大変なのに、様々なインフレが起  
こって、来年はエスコ：ん？400号記念  
じゃないかって？

だ・か・ら、16年先も続いてくれよっ  
て「きぼう」をこめたメッセージな訳で：  
もう、〇〇〇〇の爪の垢でも煎じて、ちょ  
こっと飲ませたいくらいだよ。  
最後に一言、北大生協はあ・な・たです!  
あなたが「きぼう」を紡いでいくのです!!

した。北大のブランドである歴史的建造物の  
魅力を伝え、構成員にその維持に関心を持っ  
てもらいたいと考えていたが、成功しただろ  
うか？近年、生協カATALOGなどは経費削減の  
影響か地方施設にはほとんど回ってこなく  
なり、きぼうの虹を目にする機会が減ってし  
まった。学生もオンラインが日常となり、ど  
の程度読んでくれているだろうか。生協の役  
割を示すためにもSNS、ウイズコロナ時代  
に応じた発信方法を考え直す次の100号の  
活動を期待している。

## 札幌国際大学スポーツ人間学部 スポーツ指導学科教授 大塚 吉則

「きぼうの虹」に寄稿したきっかけは何  
だったのだろう、と旧いメールを確認して  
みたところ、「食育」の講義に協力してくだ  
さった理事会室の方からの依頼でした。全  
部で8回ほどの連載でしたが、途中カラー  
刷りの版もあり、毎回楽しく原稿を書いて  
いた記憶があります。

それまで「あ、何か配布されているな」、  
程度にしか関心のなかった「きぼうの虹」  
ですが、「見ました」、「次が楽しみです」な  
どと声を掛けられ、実は「きぼうの虹」の  
読者は沢山いるのだと知りました。今回  
400号を迎えられたのも、編集事務局は  
勿論ですが、そのような読者の方々の支持  
があったからだと思います。北大を離れて  
久しいですが、また「きぼうの虹」を読  
みたくくなりました。

## 北海道大学総合博物館 教授 江田 真毅

北大の様々な施設を取りあげた「〇〇へ  
行くこう」シリーズと身近な風景を素敵に切  
り取ったフォトコンテストがお気に入りです。  
2016年の総合博物館のリニューアル  
にに合わせて「博物館へ行くこうII」で寄稿  
させていただきました。その際、この「〇  
〇へ行くこう」が2009年の「総合博物館  
へ行くこう」から始まったのを知って不思  
議な縁を感じました。積み重ねて400号。  
今後も私たちに身近だからこそ気づきにく  
い北大の魅力を発信し続けていただきた  
いと思います。

- 牛乳パックの再利用を考える全国大会に向けて人と自然の共生の時代(94年)
- 特集 集平和 大学生協は平和を守る取り組みを瞳のよう  
うに大切にしてください(94年)
- 消費税引き上げ反対を求めると署名ご協力をお願い  
致します(94年)
- 戦後50年と大学生協の歩み(95年)
- 国際司法裁判所に核兵器の違法を宣言させる運動を  
支持する「公的良心の宣言」(95年)
- 特集 戦後50年と北大生協 第1回(95年)
- フランスと中国の核実験強行に抗議(95年)
- 座談会 北大生協90年代の課題と21世紀への希望(96年)
- 日米安保を考える(96年)
- 食安価格改定とプリカシステム導入(97年)
- 北大生協創立50年 73年〜70年代後半(97年)
- 改装なった会館店クラーク店(97年)
- 251号〜300号 (98年7月〜05年9月)
- 北大生と飲酒をめぐる諸問題についての試論(98年)
- 地方交流会 函館水産支協 檜山地方演習林等(98年)
- 食材のこだわり 大学生協食品添加物自主基準(99年)
- 工学部食堂 カフェテリア方式で新装オープン(99年)
- 工学部食堂新装オープン(2000年)
- 循環型社会構築に向けて(01年)
- プロフェッショナルとゴミと南極(02年)
- 樹液の利用ー新しい森林文化を楽しむー(03年)
- 301号〜350号 (05年12月〜14年2月)
- 共生「食」シリーズ(08年)
- 心とからだ健康を考えるシリーズ(07年〜22年継続中)
- 牛トコ誕生秘話(05年)
- ほうれん草 産地視察 INタイ(06年)
- レス袋削減運動生協の取り組み(07年)
- レストランポプラオーブン(08年)
- 食品リサイクル工場見学記(09年)
- 総合博物館へ行くこうシリーズ(09年〜12年)
- 図書館へ行くこうシリーズ(10年〜15年)
- 北部食堂リニューアルオープン(10年)
- 新ICカード職員証に生協の電子マネー機能が搭載(11年)
- 北大生協HP 教職員組織委員会のWebページを開設
- 「きぼうの虹」WEBで閲覧可能に(11年)
- 秋のプレミア5%キャンペーン&組合員加入(12年)
- 「きぼうの虹」企画フォトコンテスト第1回開催(13年)
- 新生協会館店新装オープン(13年)
- 351号〜400号 (14年4月〜22年9月)
- 「湯けむりから見える現代人の健康」
- 温泉シリーズ(14年〜15年) 参加報告(14年)
- 全国教職員セミナーinふくしま 参加報告(14年)
- キャンパス放浪記in函館(15年)
- 「植物園に行こう」シリーズ(15年)
- 学生の読書推進のためのリーディングリスト運動(15年)
- 産地交流企画 田植え稲刈り体験レポート(15年)
- ピアス交流企画 田植え稲刈り体験レポート(15年)
- 北大生協を支える北海道事業連合とは(15年)
- サステイナブルキャンパス提案プロジェクト(16年〜17年)
- 「文化財へ行くこう」遺跡へ行くこうシリーズ(17年〜20年)
- 北大キャンパス内生協店舗マップ(17年)
- 自転車清浄化プロジェクト(17年)
- 北大生協設立70周年を迎えて(17年)
- 「台湾通信」シリーズ(18年〜20年)
- 七代戦報告(18年)
- 北海道胆振東部地震に見舞われて
- 北大生協の組合員対応(18年)
- 総合博物館の新たな挑戦(19年)
- 二ホンザルこぼれ話(20年〜継続中)
- 座談会「コロナ禍の大学生協の生活を考える」(21年)
- 「天文学書館へ行くこう」シリーズ(20年〜継続中)

# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



やたら忙しい現代社会です。働き方改革って、どこの話？ そんな風に感じておられる方もいらっしゃるのでは。どんな仕事を詰め込んでいけば、いくら効率化を図っても、必ず限界が来ます。そこを超えてしまうと、戻ってくるのは大変、という一線があると思います。ストレス対処で大事なことのひとつは、戻って来られるところで立ち止まる、あるいは引き返す、ということだと考えます。

ストレスが大きくなってきて、限界を越えそうになったら、まずは立ち止まればよい。でも、これ、意外と難しいかもしれません。その理由の一つは、だんだんストレスが強くなっていくと、私たちが物事を把握し感じる仕方自体が、影響を受けてしまうということですね。まあつまり、自分の状態がわからなくなってしまう傾向が、どうも強いようです。心理相談にみえた方が、ときどき、「大した」と話さないんですけど、「大した」と話し始めることがあるのですが、そういう場合は、かなり大変な状況になっている場合が結構多いのです。自分の状態がよくわからないまま走り続けるというものは、センサーが正常に働かなくなつた飛行機がそのまま飛び続けるようなもので、はたから見ると、かなり危ないのではないのでしょうか。

そう、この「はたから見ると」というのが重要な気がするのです。もし、まわりの人から「いつも疲れてるよね」「なんか大変そうだよ」「大丈夫かって、〇〇さんが心配してたよ」…といった声がいくつも聞こえてきたら、これはブレーキをかけた方がよいというサインだと思います。

でもこういう時には、休んだり、ペースを落とすということが、ものすごく遅れを取ってしまうように感じられるかもしれません。しかし、もしそのまま限度を超えて進んでしまつたら、回復にはかなりの時間と労力がかかるところを覚悟しなくてはならないように思

### こころの健康を考える ⑦⑥

### こころのブレーキをかけるとき

ます。年単位の時間が必要になる場合が結構あるように思います。こういう予防的な時期を含んだ経過は、なかなか心理学的支援の実践の中では直接知る機会が少ないように思いますので、ご参考までに私自身の経験でお話ししましょう。一番早いので、回復まで一年半でした。阪神淡路大震災の「こころのケア」の専門職ボランティアに一年間、北海道から神戸に毎月一週間ずつ泊まり込みで通つて、二次的な心的外傷後ストレス障害のような状態になった経験がそれです。しかもこの場合、回復は色々なグループ・カウンセリングを訓練名目で受けてのことで、つまりはかなり強力な専門的支援の下での一年半です。ものすごくきれいに治つたのですが。

この例のように、強力であつても単一のストレスだけによる場合は比較的回復しやすいように思います。しかし、たとえば受験のプレッシャーに家族関係の問題が重なつたとかいうように、複数の強いストレスが絡んだ場合には、回復はもつと難しい問題になるように思います。ある程度回復した後も後遺症のようにして、たとえば習慣的に酒を飲むようになるとか、なんとなくいつも鬱っぽくなるとか、そういう状態が残る場合もあります。一般に、ストレス要因が複数重なるほど打撃が急に大きくなるのですが、それがこういう形で出ているということでしょうか。

そして、こういう時は、なんかちよつと休まずぎかなあ、とか、なんだかさぼつてる感じがするなあ、というくらいにブレーキのかけ方が、ちょうどよいかなと思います。長い目で見れば、割に合うのではないのでしょうか。墜落するよりは、緊急着陸する方が、はるかにましなはずですか。

# ほけんのお話

昨年6月に損害保険料率算出機構が改定した参考料率+10・9%と各社の収支の状況を踏まえて、この10月に火災保険が改定されます。

2018年、2019年に続く改定で、保険の対象となる住宅の建物の構造、築年数、所在地によって保険料に大きな差が出る改定です。自然災害の激甚化と建物の築年数の経過とともに損害率が悪化する実態から、築年数が新しい建物と古い建物の料率に差をつけ、古い建物ほど保険料が上がるしくみです。現在も築年数による区分(10年未満、10年以上20年未満、20年以上など)で料率に差をつけており、今回の改定では、その区分を変更してさらに差をつけます。区分の変更は、区分をさらに細分化する、区分をやめて1年ごとにするなど各社それぞれで、建物の構造と築年が同じでも、保険会社によって保険料が高くなつたり、安くなつたりする可能性があります。また、この5年間に2回の改定があつたので、5年以上の長期契約を10月以降に更新契約をする場合は保険料の値上げ幅が大きくなることも予想されます。

また、保険期間が最長5年に短縮されることで、火災保険の改定の影響を受けやすくなります。その他、免責金額の設定の仕方、免責事由の明確化、火災保険トラブルを防ぐための特定業者対策、コロナ禍で定着した置き配に対応して家財に宅配物を追加するなどがあります。

火災保険を契約するときは、自分の生活や自宅の予想されるリスクを考慮し、事故があつたときに自分で補う損害の内容と程度、保険で補う損害の内容と程度を検討したうえで、基本の補償、加える特約や免責金額を決めていきます。保険料を安くするために補償を削り、実際に保険事故が起きたときに悔やむことがないように、しっかり時間をかけて代理店で複数の保険会社



# 大学文書館へ 行こう

## 第11回 桑園の大学村

北海道大学大学文書館 井上 高聡



大学村の田中義磨宅  
(1913年ごろ、大学文書館蔵)

### 大学村の人びと

現在の札幌市中央区北六〇条十一〜十三丁目目の住宅地は、かつて「大学村」または「博士町」などと呼ばれていました。北大教授が私宅を構えていたためです。

元は大学の農場敷地であったこの場所に、一九〇九年十二月に東北帝国大学農科大学助教授時任三彦（一八七〇〜一九五七年、農業物理学、後に農学部長）が居を定めたのが、大学村の始まりです。数年の内に、高岡熊雄教授（一八七〇〜一九六一年、農業経済学、後に第三代北大総長）、新島善直教授（一八七〇〜一九四三年、林学）、和田健三講師（一八六〇〜一九三四年、水産学、元教授）、田中義磨助教授（一八八四〜一九七二年、遺伝学、後に九州帝国大学教授）、半澤洵助教授

で、近隣の問題を協議し、懇談に興じました。第二回は、一九二二年十二月、時任邸で開いていきます。出席者は先述の高岡、新島、和田、田中に加え、奥村医師（未詳）の計六名です。

近隣の問題として、電灯設備、消火器備え付け、郵便局の設置などを協議しています。また、名士の住宅街であっただけに各所から寄付の依頼などが多く、消防組合、神社祭礼、山車費用、小学校の創立記念、消防ポンプ購入、記念碑建立などについて、村会で一致した金額を取り決めていきます。さらに住宅地は大学の所有地であるため、土地払い下げや地代についても協議しています。東京の沢庵や千葉の醤油の共同購入、道路の除雪費用も議題が上がっています。

（一八七九〜一九七二年、応用園学、後に教授）が家を構え、少し遅れて星野勇三教授（一八七五〜一九六四年、園芸学、後に農学部長）、宮脇富助教授（一八八三〜一九六三年、畜産学、後に帯広畜産大学長）、宮部金吾教授（一八六〇〜一九五五年、植物学）などが加わります。以降も北大関係者や、医師、中学校長、銀行頭取など、いわゆる名士たちが居住する住宅街を形成しました。池上重康先生（工学研究院）の調査によると、一九五〇年代半ばまでに北大関係者延べ十七名が住んでいます。

### ハイソで寛雅な村会

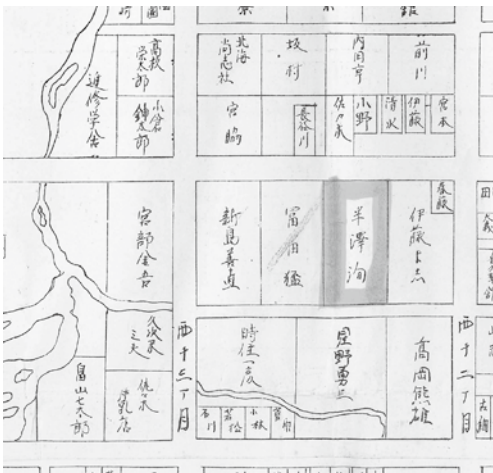
この大学村には「村会」なる集いがあり、各家当主が、月に一度、各家を持ち回りの会場とし

場し話題になりました。一九四三年二月二十八日（第二九一回）には、四代目柳家小さんの落語「うどんや」を聞いています。一九四八年八月九日（第三四五回）には「ご名答」が流行語となったクイズ番組「二十の扉」を楽しんでいます。

### 往時をたどる公園と日誌

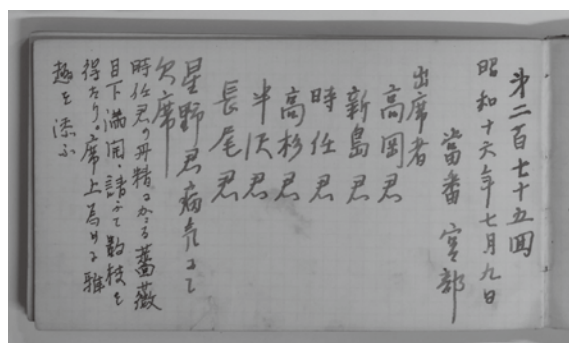
戦後、高倉新助教授（一九〇二〜一九九〇年、農業経済学、後に経済学部長）が村会に加わりまします。また、一九五三年三月十六日には村会の精神的支柱でもあった宮部金吾が九〇歳で逝去します。宮部邸跡地は現在、「宮部記念緑地」（北六西十三）として公園になっています。

一九六七年十月三日（第四七六回）、二年一ヶ月ぶりに村会を開き、子の世代を含めた集まりとして継続していくことを決



1932年の大学村の住宅図（大学文書館蔵）

めます。このときの出席者九名の内、戦前から加入していた親世代は半澤洵のみです。これ以降は夫人中心の集いとなることも多かったようです。そして半澤も一九七二年九月二十五日に九三歳で長逝します。最後の村会是一九九七年十月二十一日（第五九六回）です。子の世代も八〇歳代、九〇歳代になり、孫世代も出席していました。村会には喧噪な俗世から遠のいた寛いだ趣があります。メンバーの長寿はそのためでしょうか。八五年間の村会の記録「村会日誌」五冊は、二〇〇七年九月、半澤家から寄贈いただき、大学文書館が所蔵しています。往時の大学教授の暮らし振りを垣間見ることが出来ます。



「村会日誌」1941年7月9日（第275回）の記載（大学文書館蔵）

**クラーク書籍便り**  
Vol.10

第1位「子宝船」は単行本と文庫あわせて30万部を超えるベストセラーとなった「きたきた捕物帖」シリーズの第二弾。謎解きに怪異、江戸庶民の人情も堪能できる物語。別シリーズからの登場人物もファンを引き込む要因でしょう。上手い!第4位「戦車の歴史」は1977年に刊行された「戦車 理論と兵器」が底本。軍事史の古典がこのタイミングで文庫化されるのはウクライナ侵略と無関係ではないでしょう。「ヒトラーとスターリン 第1巻」や「憲法」「人種主義の歴史」[北海道大学ピースガイド]がランフィンしていることも民族の対立や戦争を改めて振り返ろうとする世相を反映していますね。

**クラーク6月一般書ランキング**

	書名	著者名	出版社		書名	著者名	出版社
1	子宝船	宮部みゆき	PHP研究所	6	荘子の哲学 講談社学術文庫	中島隆博	講談社
2	物語ウクライナの歴史 中公新書	黒川祐次	中央公論新社	7	ヒトラーとスターリン 第1巻 草思社文庫	アラン・ブロック	草思社
3	北海道大学 ピースガイド	ピー・アンビヤス 9条の会・北海道	ピー・アンビヤス 9条の会・北海道	8	学問と政治 学術会議任命 拒否問題とは何か 岩波新書	芦名定道	岩波書店
4	戦車の歴史理論と兵器 角川ソフィア文庫	加登川幸太郎	KADOKAWA	9	人種主義の歴史 岩波新書	平野千果子	岩波書店
5	憲法	鶴飼信成	岩波書店	10	基礎からわかる論文の 書き方 講談社現代新書	小熊英二	講談社

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

**北大生協組織委員会報告**

**学生委員会**

■「春合宿」を開催しました!

5月14日・15日に、1年生に生協の仕組みや学生委員会の活動を紹介する「春合宿」を開催しました。合宿といってもコロナの関係で宿泊は叶いませんでしたが、久々の対面合宿で交流を深めることができました。また、疑似的な活動を企画・提案することで、実際の活動の流れを知ることができました。ここでの学びを活かし、組合員の皆さんへ還元できたらと思います。

■「ごみナビ」を実施しました!

6月3日〜5日にかけて開催された「北大祭」にて、来場者にごみの分別を呼びかける「ごみナビ」の活動を、北大祭事務局からの依頼を受けて実施しました。3年ぶりの対面実施となり、多くの来場者に対してごみの分別を促しました。



■学生委員会公式HP、Twitter  
<https://hokudai-coop-gi.com/>  
@HU\_COOP\_GI\_CS

学生委員会の活動や学生委員の日の様子など、学生委員会のことについて詳しく知りたい方は、公式HP・Twitterをどうぞご覧ください。

■学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

学生委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。これからも学生委員会をよりよく願います!!

**院生委員会**

■院生フェスタ実施!

7月22日(金)に院生組合員を対象とした交流会を開催しました。普段関わることの少ない異分野を専門とする学生たちと知り合える機会ということもあり、例年の総代会議よりも多くの参加者に申込みいただきました。当日は班別にミニゲームを行い大いに盛り上がったほか、自由交流会ではお互いの研究内容や院生生活について熱く語る姿が見受けられました。今年中に第二回を行う予定ですので、今回参加できなかった皆様もぜひご参加ください。

研究室を越えた横の繋がりを一緒に造っていきましょう!



■院生委員会公式Twitter  
@Hokudainsei\_coo

7月より隔日でテーマを設定して情報発信をしています。毎週金曜は雑学がテーマ、毎週水曜は生協について、2週間に1回はメインストリームの現在の様子(非季節の移り変わり)などなど!

ぜひフォローをお願いします!

■院生委員会連絡先

hokudai\_insei@coop.hokudai.ac.jp

現在、院生委員会では随時活動のアイデアを募集しています。困っていることや要望があればぜひご連絡ください!

**教職員委員会**

■教職員総代会議…7月11日と12日に開催した総代会議では、6月の営業報告と75周年企画について報告されました。またお弁当の品ぞろえや食堂の営業について、利用者ミーティングについてなどの意見交流がされました。

■教職員委員会…7月14日に定例会議を開催しました。きぼうの虹の編集や、総代会議での意見について、フォトコンテストの応募状況などを話し合いました。

■教職員委員会では組織委員を募集しています。教職員総代と理事会をつなぐ役割を担い、月1回の定例会議を中心に活動しています。興味のある方は、理事会室までメールでお問合せください。

■「きぼうの虹」…この冊子です。教職員委員会が編集し、隔月を基本に発行しています。

【編集後記】

はや前期が終わりました。昨年と違い、学生や教職員のみなさんも対面が増え、楽しそうに思えます。生協では夏休み前に初めて、学生・院生・教職員が集まって利用者ミーティングを開催しました。みなさんが普段の生活の中でどう生協を利用するのが垣間見えたことと、参加したみなさんが楽しく意見交流していたのを見て元気をもらえました。

みなさんの大学生活をもっと充実させるために、生協もがんばってこたえていきます。みなさまも引き続きお身体にお気を付けてください。